



～研究と遠距離結婚編～

卒業しても悩みはある。
それでも思い切り研究がしたい！

現在の状況について

私は今年三月まで北海道大学で学生をしていました。博士後期課程、いわゆるドクターの学生でした。研究テーマは学生時代から今も、海に生きる酸素非発酵好気性光合成細菌という生き物を研究しています。この細菌は、光合成を行います。有機物を使って従属栄養的に増殖しますが、光エネルギーと有機物の両方を利用して生きるこの細菌が、海でどのようにその両者を利用して生きているのか？について研究しています。船に乗って海水を採取して調べたり、実験室で培養実験をしたり、海外出張し、現地の研究者の方と共同で研究したりすることもあります。

また、昨年三月に結婚をしました。当時、夫は東京で、私は北海道でドクターの学生



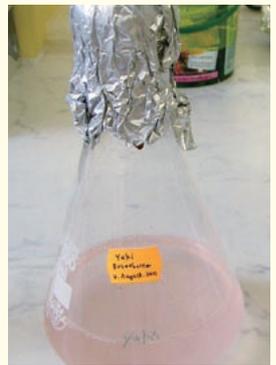
沿岸環境科学研究センター 研究員

高部 由季さん

をしていました。研究職は土地をなかなか選べません。「研究出来る土地に行く」という場合が多いので、今後いつ同じ土地で暮らせるのだろうかという思いがお互いにありました。「いつか結婚するのなら、いっそのこと今、しようか！」ということになり、お互いの両親の理解と協力もあり学生結婚をしました。しかし今も、夫は東京、私は愛媛という訳で、離ればなれの新婚生活が続いています。

研究者になって

学生時代は、酸素非発酵好気性光合成細菌という生き物のことを研究することに、何か不思議なこだわりがありました。今でも、どうしてこんなに自分は、この生き物が好きなのか、分かるようではありません。学生時代は、自分の信じた研究を思い切り



出来る、非常に貴重な期間だと思っています。私にとって、この学生時代に感じた研究への思いが、卒業後も研究を続けていく道を選ばせました。分からないことが分かる喜び、そして、またさらに分からないことが分からないと思える楽しさ。また、研究のもう一つの醍醐味は、それを他の人と分かち合い、共に楽しめることだと思っています。

仕事以外の生活について

仕事とそれ以外の生活との間で気分転換をするほど、過ごし方を変えてはいないのですが、疲れた時はしっかりと休むようにしています。半日くらい何も考えないと、次第にやる気が戻ってきます。

学生に向けて

私自身、今のワークライフバランスが自分にとって良いのか、常に悩んでいます。夫と別居中で、現在、一人暮らしなので、家庭生活の割合が非常に低いです。今後の生活を考えた時、夫との別居生活がいつまで続くのか、研究職を続けていけるのか。それでも、今は目の前の研究を存分に楽しもうと決めています。その先に、自分にとっての最善の答えがあると信じて、大切に研究員としての日々を過ごしていこうと思います。

ワーク・ライフ・バランスの割合 +++++

